

特別会計

一般会計と区別が必要な事業の会計

8つある特別会計は
いずれも赤字はありませんでした

※各項目・区分ごとに四捨五入しているため、差し引きが一致しないところがあります



区分	歳入	歳出	差し引き	区分	歳入	歳出	差し引き
土地区画整理	1.9億円	1.9億円	0円	後期高齢者医療	273億円	263億円	10億円
駐車場	3.7億円	1.4億円	2.4億円	介護保険	1,499億円	1,484億円	15億円
母子父子寡婦福祉資金貸付	5.3億円	0.9億円	4.4億円	基金	25億円	22億円	3億円
国民健康保険	1,869億円	1,848億円	21億円	公債	3,354億円	3,354億円	0円

企業会計

民間企業のように利用料金などの収益で運営している会計

収益的収支^{*1}は、中央卸売市場・路面電車は赤字、
市立札幌病院・地下鉄・水道・下水道は黒字です

※各項目・区分ごとに四捨五入しているため、差し引きが一致しないところがあります

*1 企業の経営活動に伴って生じる全ての収益と費用

事業	主な整備内容	収益的収支	資金の状況
市立札幌病院	老朽化した設備や医療機器の更新	収入 247億円 - 支出 242億円 5億円	6億円の資金残 [*] 赤字の累積額 88億円
中央卸売市場	ガスヒートポンプ室外機などの更新や老朽化に伴う施設の外壁改修工事	収入 22億円 - 支出 23億円 -0.8億円	10億円の資金残 赤字の累積額 45億円
路面電車	低床車両の製造や変電所の新築、停留場の改修工事	収入 20億円 - 支出 21億円 -0.5億円	3億円の資金残 赤字の累積額 5億円
地下鉄	南北線高架駅の耐震改修工事、改札機などの更新工事	収入 504億円 - 支出 410億円 94億円	15億円の資金残 赤字の累積額 2,102億円
水道	施設、水道管路の更新や耐震化	収入 457億円 - 支出 340億円 117億円	153億円の資金残 [*] 赤字の累積額 なし
下水道	老朽化した下水道管路や施設の改築、雨水対策、地震対策	収入 516億円 - 支出 485億円 32億円	73億円の資金残 赤字の累積額 なし

資産

※令和2年3月末現在

基金

特定の事業や財源が不足したときに使う貯金

- 残高 … 3,911億円
- 財政調整基金224億円など22基金

財産

公園や学校などの公有財産や物品、債権

- 公有財産 … 土地5,525万㎡、建物(延べ面積)581万㎡、有価証券14億円、出資による権利150億円
- 物品(100万円以上のもの) … 5,433点(台)
- 債権(民間への貸付金など) … 38億円

どうなってるの? 市債残高

全会計合計で16年連続減少

市債とは市の借金のことで、その残高は前年度に比べておよそ148億円減りました。



さっぽろのお財布

市民の皆さんが納めた税金がどのように使われているのかをお伝えするため、市では決算や予算の執行状況を毎年公表しています。このページでは、令和元年度の決算の概要や、市の財政状況をお知らせします。



令和元年度決算の状況



一般会計

福祉や教育、道路整備など行政の基本的な事業の会計

収入から支出を差し引いた収支は105億円の黒字です

市税などの収入(歳入)が増えたことや、少雪により除雪費の支出(歳出)が減ったことなどから、黒字収支を維持しています。

※各項目・区分ごとに四捨五入しているため、合計などが一致しないところがあります

歳入総額 **1兆28億円**

前年度比143億円増(1.4%増)

歳出総額 **9,923億円**

前年度比112億円増(1.1%増)

市民1人
当たり
50.4万円



※1 令和2年4月1日現在の人口(国勢調査ベース)で割って算出

市の財政の長期的な見込みと取り組み

今後の財政運営は？

中長期的に持続可能な財政構造への転換を進めていくため、財政基盤の強化を図るとともに、財産の戦略的な活用が必要です。

お金の使い方と集め方の見直しを一層推進

子育てやまちのリニューアルなどへ積極的に予算を配分しながら、各事業の見直しを進め、めりはりのある財政運営を行います。また、将来世代に過度な負担を残さないよう、市債の適切な管理を行うとともに、市税などの収納対策や経済活性化により収入を増やし、財政基盤も強化します。

将来世代に引き継ぐ基金の残高は適切な水準に管理

今後もまちづくりの取り組みを進めるため、基金を活用しますが、不測の事態への備えも含めて適正な水準を維持していきます。

特に注目！重点的な取り組み

公共施設の建て替えにかかる費用を抑制

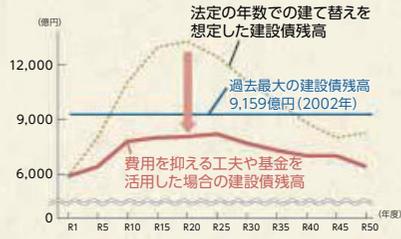
公共施設の更新の必要性に対応しながら、建て替え費用を抑えます

公共施設の建て替えなどにかかる費用は、令和元年からの50年間で1年当たり平均1,444億円かかることを想定。そこで、右記のような工夫を行うことで、1年当たり平均1,024億円まで費用を抑えます。

令和50年度までにかかる建設事業費の見通し



建設費に充てられる市債（建設債）残高の見通し



- 建物が長く使えるように、改修や修繕を実施
- 建て替え時期を分散させて、費用の偏りを軽減
- 施設の機能を維持しながら複合化を進め、総量を抑制

市の財政の詳細は、ホームページでもご覧になれます

札幌市の財政

検索

市の財政の特徴 (令和元年度決算)

自治体の財政状況を示す指標である「健全化判断比率」は良好な水準です。しかし、医療や福祉などにかかる費用が増え、自由に使えるお金が少ない状態が続いており、油断はできません。



健全化判断比率の4つの指標は良好

指標	札幌市	早期健全化基準*
実質赤字比率 一般会計を中心とした赤字の比率	赤字なし	11.25%
連結実質赤字比率 全ての会計を合わせた赤字の比率	赤字なし	16.25%
実質公債費比率 年間の借金返済額の比率	2.1%	25%
将来負担比率 将来の負担となる借金などの比率	49.7%	400%

*この数字を上回ると財政健全化の取り組みが必要になります

自力で得る収入が少なく、国からの交付金が多い

財政力指数(高い方が健全)

標準的な行政を行うためのお金を自ら賄える割合

0.733

政令市20都市中17位
政令市平均0.856

定期的な収入に対して、自由に使えるお金が少ない

経常収支比率(低い方が健全)

お金が義務的な経費などにどれだけ充てられているかを示す割合

95.3%

政令市20都市中7位
政令市平均97%

令和2年度予算の執行状況

一般会計

歳入歳出予算額	歳入執行率	歳出執行率
1兆3,431億円	46.8%	44.9%

特別会計 ※公債会計を除く

区分	歳入歳出予算額	歳入執行率	歳出執行率
国民健康保険	1,843億円	35.0%	37.6%
介護保険	1,571億円	39.1%	39.3%
その他	308億円	38.0%	30.2%

市債残高

一般会計	特別会計	企業会計
1兆938億円	14億円	5,494億円

*令和2年9月末現在

企業会計 (収益的収入と収益的支出)

区分	収入予算額	収入執行率	支出予算額	支出執行率
市立札幌病院	254億円	40.9%	259億円	44.5%
中央卸売市場	22億円	46.6%	24億円	41.7%
路面電車	16億円	21.6%	16億円	19.4%
地下鉄	529億円	32.7%	429億円	20.3%
水道	460億円	47.1%	369億円	40.1%
下水道	523億円	36.2%	504億円	16.2%

基金残高 3,951億円

一時借入金 企業会計(病院21億円、地下鉄60億円)

財政から見る 新型コロナウイルス対策

令和2年第3回定例会市議会までに6回の補正予算を議決。「医療提供体制の強化と感染拡大の防止」、「事業の継続と雇用の維持、市民生活への支援」、「経済活動の回復」といった事業の費用を計上しました。これにより、令和元年度からの新型コロナウイルス感染症への対策規模としては、全会計で3,907億円となっています。